

第157回 愛知学院大学モーニングセミナー

尾張最後の殿様 徳川慶勝

～慶勝とはどんな人物であったのか～



徳川美術館 学芸員
原 史彦



尾張藩幕末前史

一橋家
2代治済

11代将軍家斉

12代将軍家慶

13代将軍家定

治国

齐朝

田安家
4代齐荘

田安家
3代齐匡

田安家
5代慶頼

齐温

慶臧

尾張家9代宗睦

..... 10代齐朝

..... 11代齐温

..... 12代齐荘

寛政11年(1799)歿

文政10年(1827)隱居

天保10年(1839)歿

この時(天保10年時)、分家の高須松平家は

通常ならば、義建が本家相続。
義恕が本家嫡男。
建寛が高須家11代を相続。

高須松平家10代義建
(数え41歳)

義恕(数え16歳)

建寛(数え15歳)

建重(数え9歳)

建豊(数え5歳)

齊莊就封反対運動が勃発
藩の有志が反対請願書を提出!!

「御家中の忿怒の申立」

「御家の恥」

「御国辱」

「押し付け養子」

分家・高須松平家から
の尾張家当主を望
む「**金鉄党**」が結成さ
れる。

尾張藩付家老・犬山城主(8代目)
成瀬正住(1812~57)らの主導で齊莊養子
を決定!!



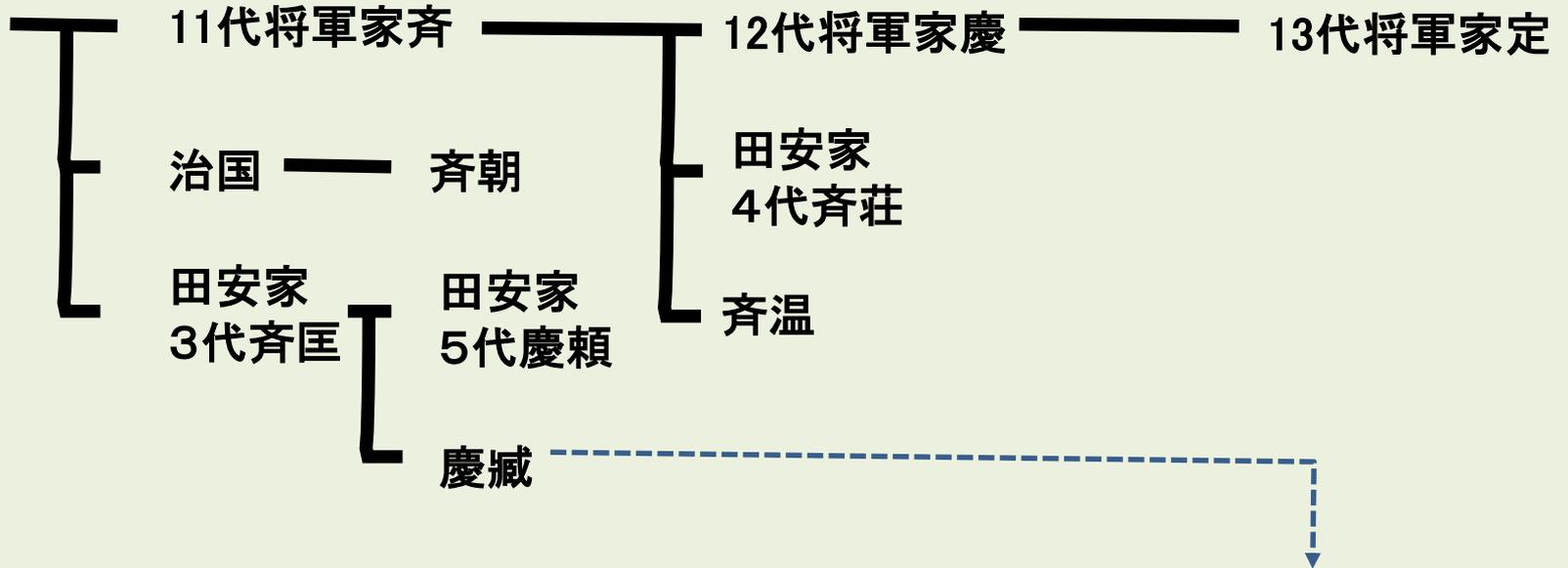
藩内怒り沸騰!!

尾張徳川家12代齊莊(なりたか)<1810~45>

[徳川齊莊木像 名古屋市・長栄寺旧蔵 戦災焼失]

押し付け養子の時代

一橋家
2代治済



尾張家9代宗睦 10代齐朝 11代齐温 12代齐莊 13代慶臧

弘化2年(1845)歿



今度こそ高須松平家登場か!!

と思いきや

高須松平家10代義建
(数え48歳)

- 義恕(数え22歳)
- 建寛(数え21歳)
- 建重(数え15歳)
- 建豊(数え11歳)

慶勝登場

一橋家
2代治済

11代将軍家斉

12代将軍家慶

13代将軍家定

治国 — 斉朝

田安家
4代斉莊

田安家
3代斉匡

田安家
5代慶頼

斉温

慶臧

またもや不満勃発!!
5代連続の押し付け養子か

幕閣・藩上層部
田安慶頼の養子を断念。

尾張家9代宗睦 10代斉朝 11代斉温 12代斉莊 13代慶臧

嘉永2年(1849)歿

今度こそ高須松平家登場か!!

と思いきや

高須松平家10代義建
(数え52歳)

義恕(数え26歳・慶勝)

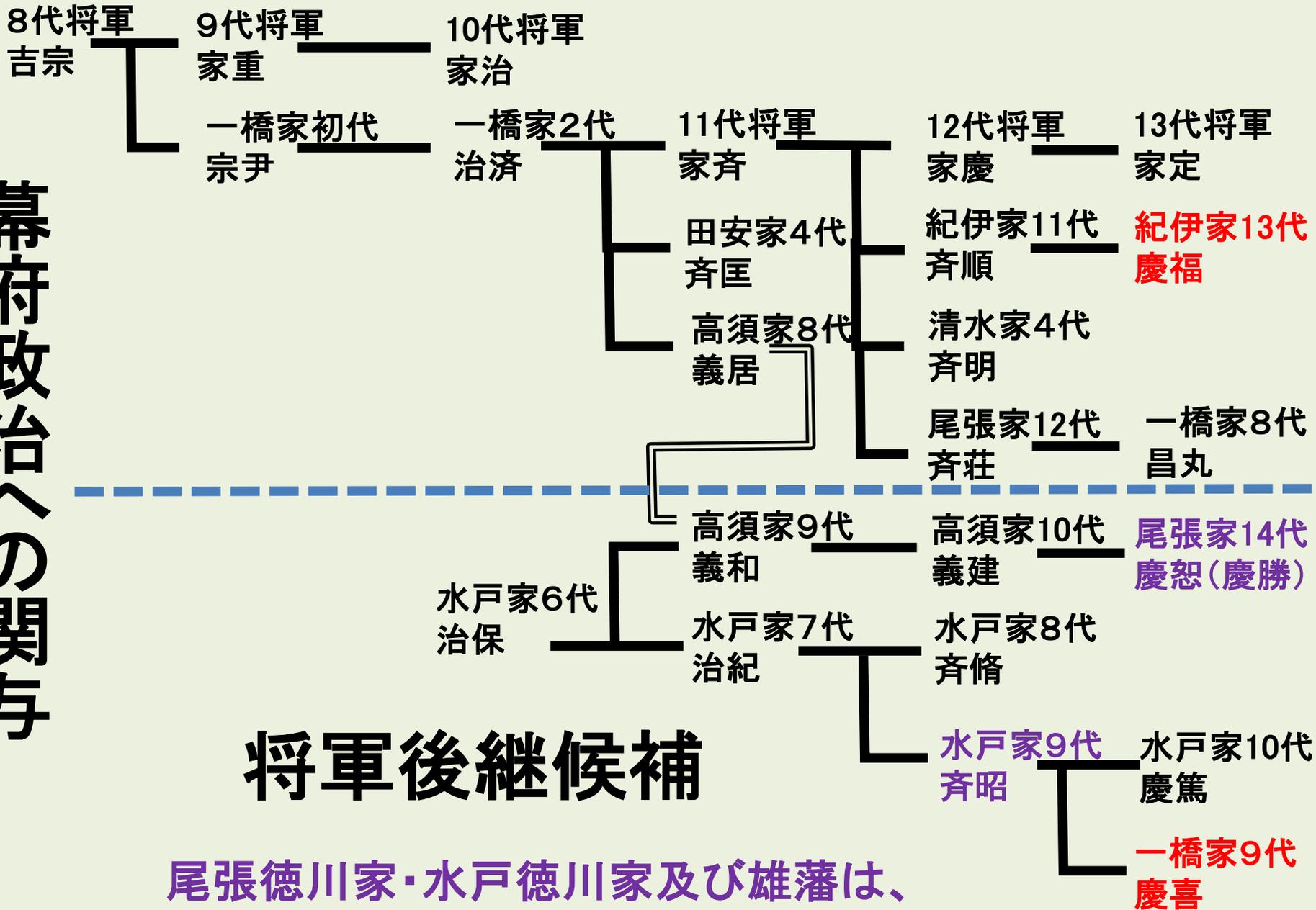
建寛(数え25歳・武成)

建重(数え19歳・茂徳)

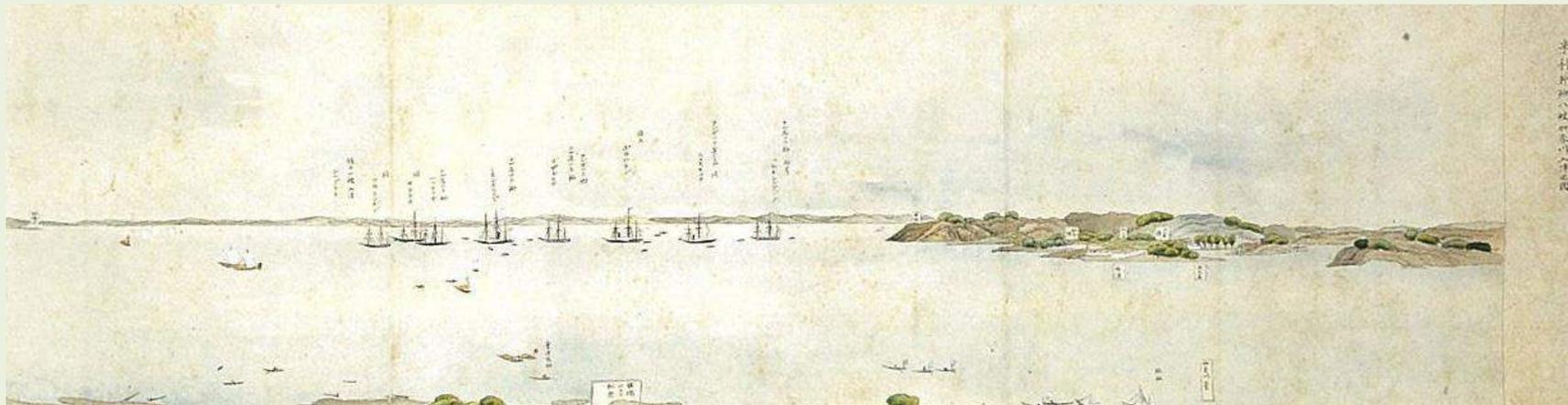
建豊(数え15歳・容保)

『青窓紀聞』三十七
嘉永二己酉下
「高須御領民のうち先年
御野先にて義建君御殊恩
を蒙りしものあり其子尾
の七間町駿夫なりしか此
度御相続をいのり国沖に
入水せしといふ此ものゝ
為に伝通院にて御回向御
丁寧にあり四谷よりも銀
二枚御備ありしよし」

幕府政治への関与



尾張徳川家・水戸徳川家及び雄藩は、
一橋慶喜を推す。



彦根井伊家13代直弼[1815~60]

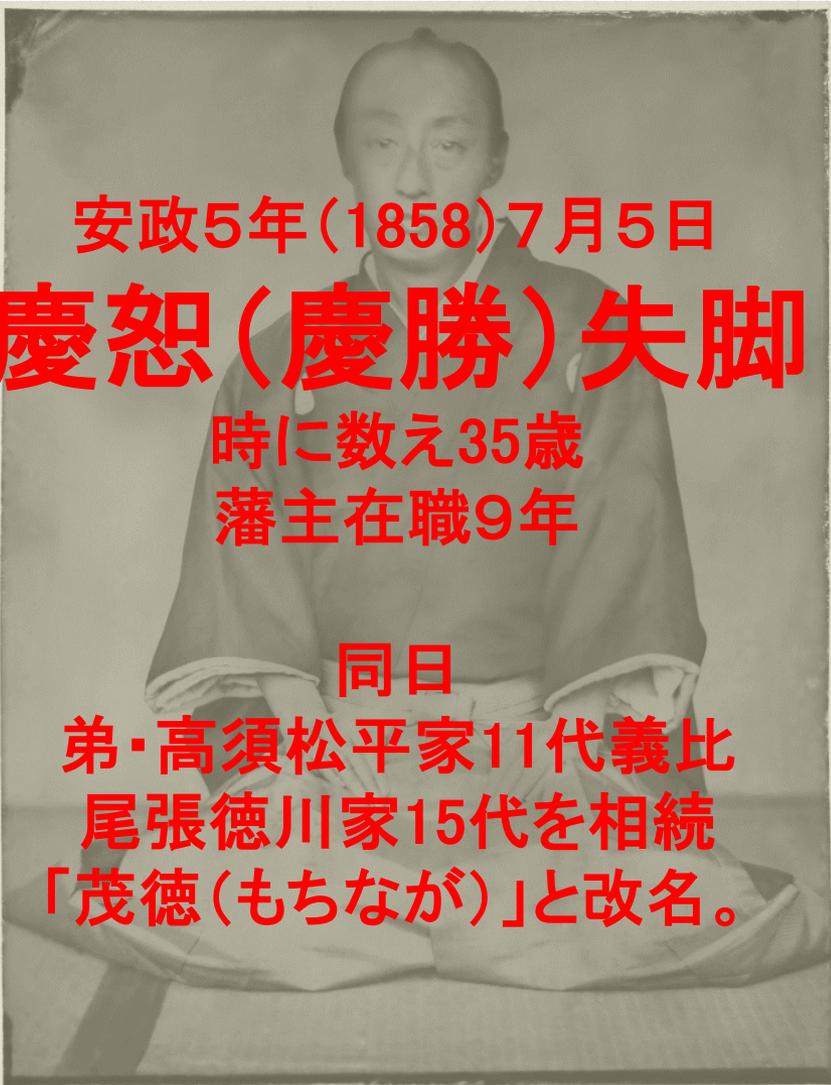
(「井伊直弼画像」彦根城博物館蔵)

安政5年(1858)6月19日
日米修好通商条約を勅許を得られないまま締結。



安政5年(1858)6月24日
水戸前藩主・斉昭、水戸家10代慶篤と慶恕(慶勝)等、江戸城へ無断登城(不時登城)し、大老・井伊直弼の専横を糾弾する。

安政5年(1858)7月5日 13代将軍家定の命により斉昭を謹慎・永蟄居、慶篤を登城停止、慶恕(慶勝)を隠居・謹慎とする。



安政5年(1858)7月5日
慶恕(慶勝)失脚

時に数え35歳
藩主在職9年

同日

弟・高須松平家11代義比
尾張徳川家15代を相続
「茂徳(もちなが)」と改名。

慶恕(慶勝)政治の刷新

親幕府・反攘夷路線へ転換
慶恕(慶勝)人事の一掃・刷新
付家老・竹腰正美の復権

慶勝側近の粛清

- ★側大寄合・田宮篤輝(如雲)
- ★小納戸頭取・長谷川惣蔵
- ★御側物頭格・阿部清兵衛
- ★明倫堂教授次座・植松茂岳
等

蟄居・謹慎・降格・左遷

尾張徳川家15代茂徳[1831~84]

(徳川慶勝撮影「徳川茂徳肖像」 徳川林政史研究所蔵)



安政7年(1860)3月3日 桜田門外の変
井伊直弼横死 享年46歳

桜田事変絵巻 彦根城博物館蔵

井伊強権政治の終焉

公武合体(公武一和)政策へ
攘夷運動の再燃
朝廷勢力の幕府政治への介入



万延元年(1860)9月4日
慶恕(慶勝)の謹慎・幽閉解除
同年9月26日
「慶勝」と改名。写真研究を始める。

万延元年(1860)10月25日
尾張徳川家15代茂徳、慶勝3男の元千代(後の義宜)
を養子とする。時に数え3歳。

文久2年(1862)4月25日
慶勝、幕府から正式に謹慎処分を宥免される。

文久2年(1862)閏8月
幕府より竹腰正諛の隠居・幽閉処分。竹腰一派の一
掃。慶勝派藩士の赦免・一斉登用

慶勝復活

慶勝復活への動き



京都

孝明天皇
(「孝明天皇御影」泉涌寺蔵)

文久3年(1863)正月
慶勝上京・孝明天皇
へ拝謁。

文久3年(1863)4月
慶勝、「将軍補翼」に
任命。

江戸

十四代将軍徳川家茂

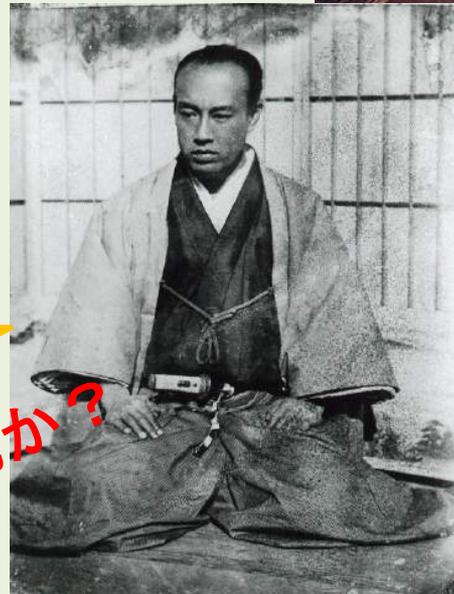


期待

攘夷実行
治安維持



現藩主・茂徳
前藩主・慶勝

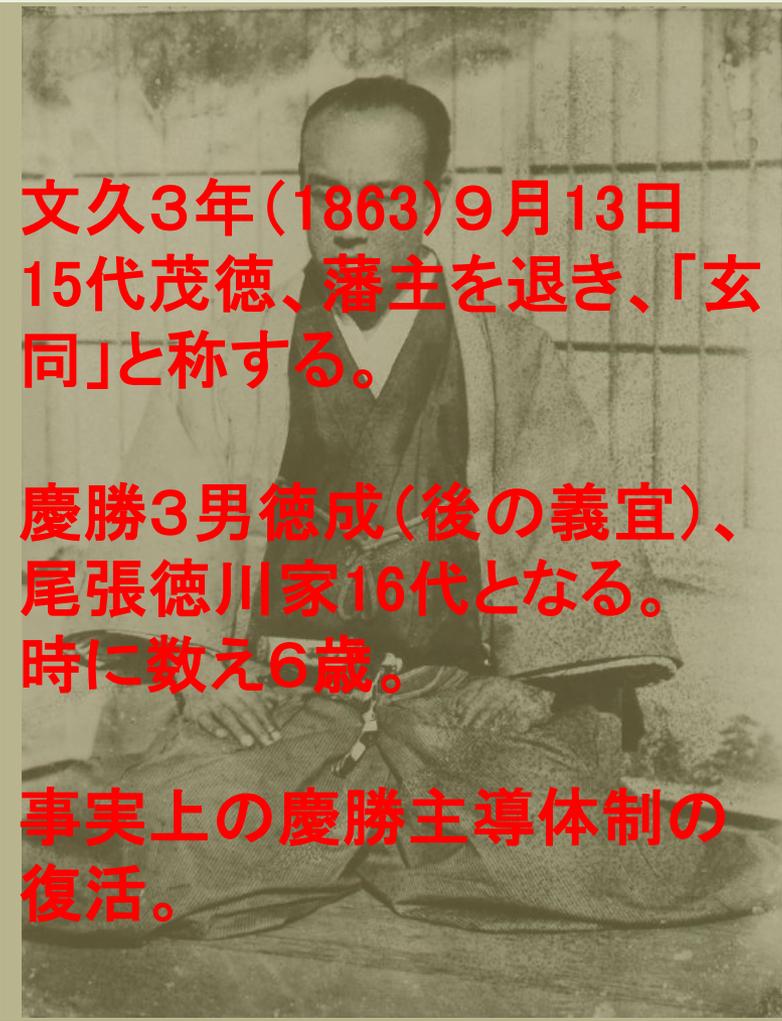


信頼

「父とも思ふ」

一国両主の憂

対立激化か？



文久3年(1863)9月13日
15代茂徳、藩主を退き、「玄
同」と称する。

慶勝3男徳成(後の義宜)、
尾張徳川家16代となる。
時に数え6歳。

事実上の慶勝主導體制の
復活。



七卿落図屏風(京都文化博物館蔵)

文久3年(1863)8月18日
八月十八日の政変。会津藩・薩摩藩によるクーデ
ター。攘夷派公家・長州藩、京都より追放。



元治元年(1864)7月19日
蛤御門(禁門)の変

蛤御門合戦図屏風(個人蔵)

長州藩、朝敵となる。

元治元年(1863)3月~4月 一会桑権力体制の成立



一橋家9代慶喜
(1837~1913) 時に27歳

禁裏守衛総督



会津松平家9代容保
(1835~93) 時に29歳

京都守護職再任



桑名松平家13代定敬
(1846~1908) 時に18歳

京都所司代

高須松平家10代義建の7男と8男。つまり慶勝の実弟。

第一次長州征伐

元治元年(1865)10月4日
慶勝、征長総督に任命される。



事前折衝により、長州藩を降伏させる。

降伏条件

- ★蛤御門(禁門)の変の責任者の処罰
3家老・4参謀他7名の斬首
- ★都落ち攘夷派公卿の転退
- ★山口城の破却
- ★藩主毛利敬親・定広父子の伏罪書提出
- ★10万石の削減

不満・批判沸騰!!



第一次長州征伐は、最少の被害で戦争を終結させた幕府側の外交的勝利。

第二次長州征伐

慶応2年(1866) 長州藩再び蜂起
幕府、前藩主・玄同(茂徳)に征長
先鋒総督を打診。



慶応2年(1866)12月27日
一橋慶喜の将軍就任により、一橋家
10代を継承して尾張家を離脱。(慶
応元年「茂栄(もちはる)」と改名。)

同年6月 第二次長州征伐を決定

慶勝反対。反慶勝派、玄同の担ぎ上げに躍起。
藩論沸騰。

一国両主の憂 再燃か？



慶応2年(1866)8月11日
14代将軍家茂、大坂城
内で歿。享年21歳。

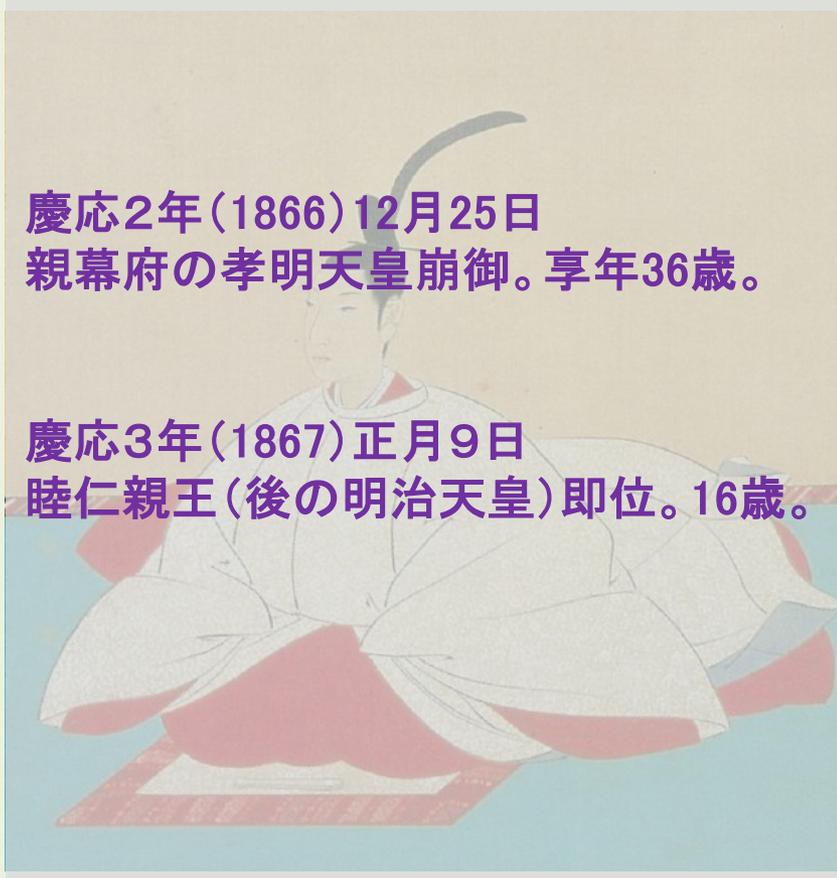


慶応2年(1866)12月5日
一橋慶喜、15代将軍に就任。

一国両主の憂 解消

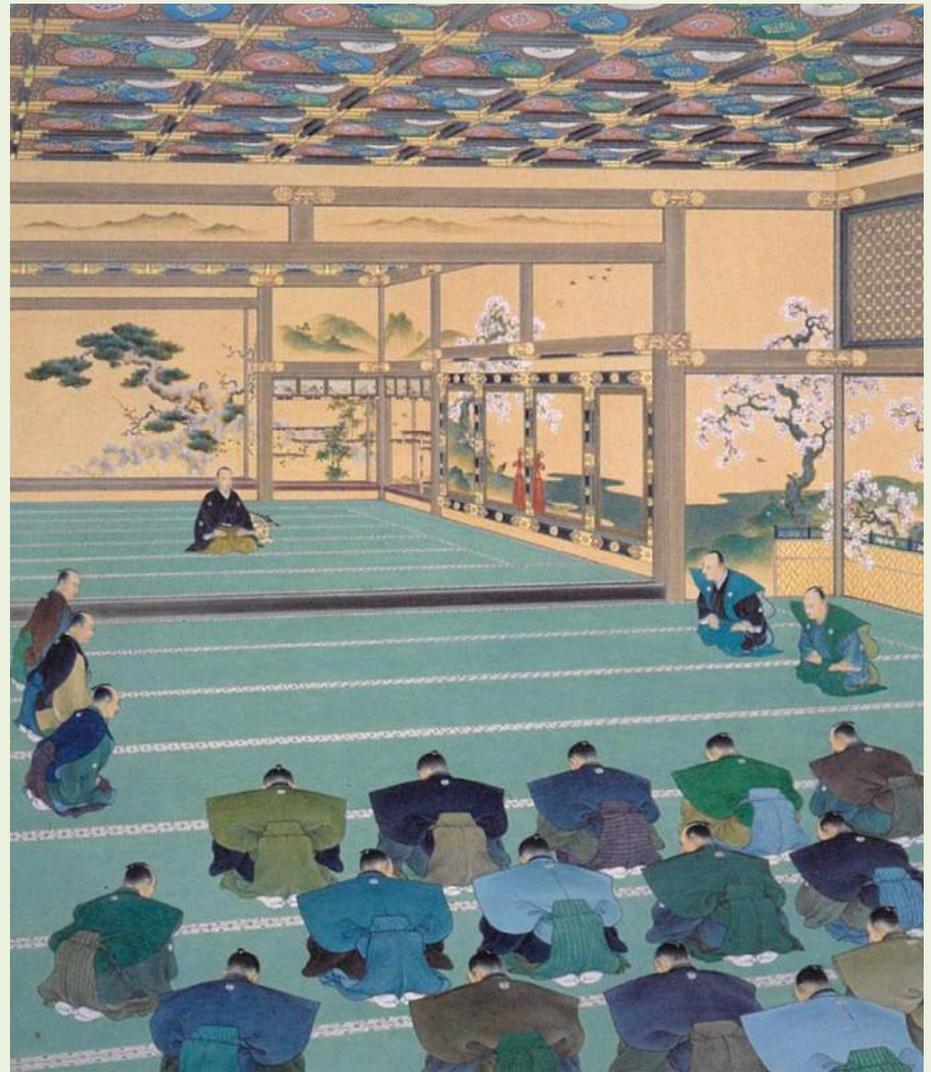
慶応2年(1866)12月25日
親幕府の孝明天皇崩御。享年36歳。

慶応3年(1867)正月9日
睦仁親王(後の明治天皇)即位。16歳。

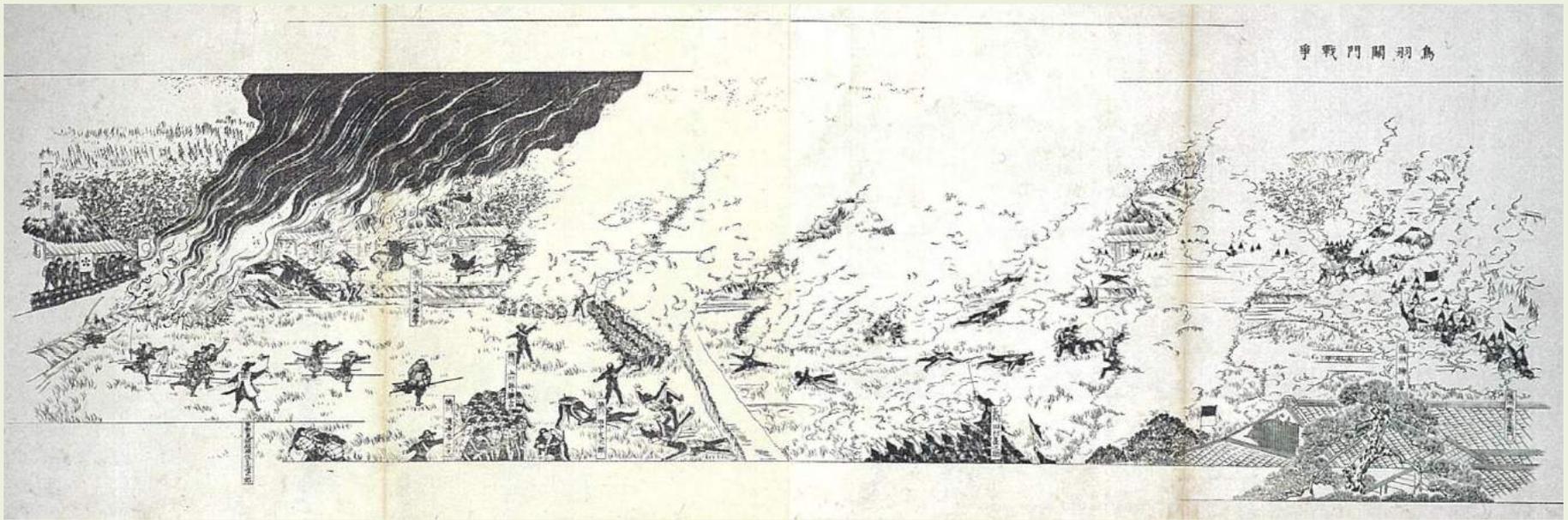


慶応3年(1867)12月9日

王政復古のクーデター
徳川慶喜の将軍職剥奪。徳川
家領の没収。江戸幕府崩壊。



慶応3年(1867)11月15日 大政奉還



慶応4年(1868)正月3日 **鳥羽伏見合戦**勃発!! 幕府軍敗退。(「戊辰戦記絵巻」霊山歴史館蔵)



正月7日 慶喜追討令。
慶喜朝敵となる。

正月6日 徳川慶喜、幕府軍を置き去りにして江戸へ逃走。

(「徳川治蹟年代記事 十五代将軍慶喜」霊山歴史館蔵)



正月9日 大坂城炎上。幕府軍壊滅。

(「城中大火ノ図」大阪城天守閣蔵)

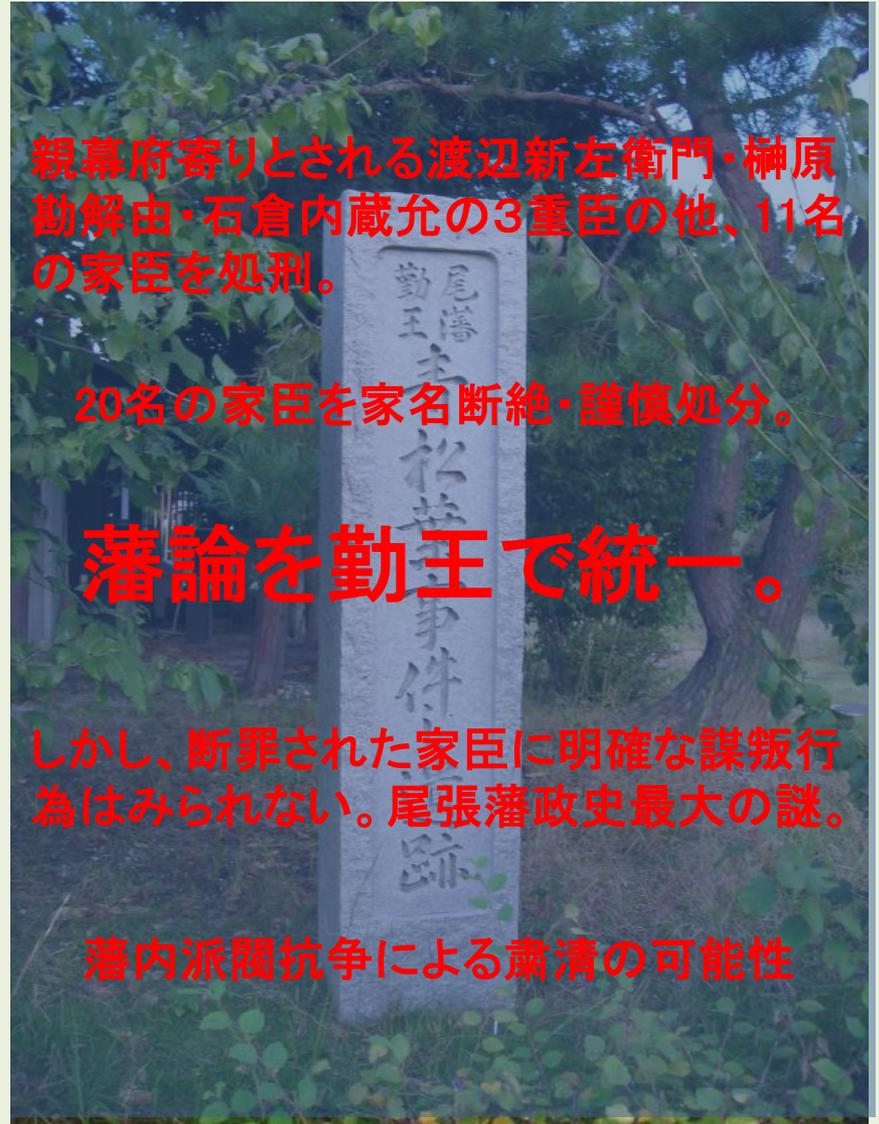
慶勝の決断



慶勝

新政府側に恭順

慶応4年(1868)正月15日 京都を出立。



親幕府寄りとされる渡辺新左衛門・榊原勘解由・石倉内蔵允の3重臣の他、11名の家臣を処刑。

20名の家臣を家名断絶・謹慎処分。

藩論を勤王で統一。

しかし、断罪された家臣に明確な謀叛行為はみられない。尾張藩政史最大の謎。

藩内派閥抗争による粛清の可能性

慶応4年(1868)正月20日 青松葉事件。

青松葉事件処罰者

【死罪】

	処罰者名	処置	年齢	役職	石高	討手	処罰日
				屋敷地		墓所	
1	渡辺新左衛門在綱	斬首	49	御年寄列 片端筋竪杉ノ町南東角	2500石(内500石足高) 門北向	新野久太夫 守綱寺	正月20日
2	榊原勘解由正帰	斬首	59	大御番頭 三之丸桜馬場筋内片端	1500石(内400石足高) 西北角 門東向	渡辺鉞次郎 養林寺	正月20日
3	石川内蔵允照英	斬首	42	大御番頭格 三之丸御霊屋筋中小路	1000石 北西角 門東向	水野敬次郎 大光院	正月20日
4	冢田愨四郎有志	斬首	61	御手筒頭格御書物奉行 竪三ツ蔵筋鶴重町より北へ	200俵(内50俵足高) 東側	浅井四郎兵衛 大光院	正月21日
5	安井長十郎秀親	斬首	52	錦織奉行格表御番 北舎人町	250俵(内180俵足高)	江原鍋吉 陽泉寺	正月21日
6	寺尾竹四郎基之	斬首	54	御使番格表御番 伊勢町筋下ル新道	150石 東北角	中山虎五郎 養林寺	正月21日
7	馬場市右衛門信広	斬首	26	寄合 武平町杉ノ町より北へ	200石 三軒目東側	天野小藤次 白林寺	正月21日
8	武野新左衛門信邦	斬首	77	御側御用人にて隠居 元定府(江戸)、前津醉雪楼に仮寓	在勤中800石(内250石足高)	中川勝助 白林寺	正月23日
9	成瀬加兵衛正順	斬首	62	元御用人兼寺社奉行で隠居 新馬場北之筋御堀端より	800石(内550石足高) 三軒目北側	本杉精五郎 円頓寺	正月23日
10	横井孫右衛門時足	揚屋入の上、斬首	44	寄合(隠居謹慎中) 外片端長島町西南角	1500石 門北向	小寺穀 柳ヶ瀬西音寺	正月25日
11	沢井小左衛門貞増	揚屋入の上、斬首	44	寄合(隠居中) 桑名町筋本重町東南角	800石	石原弥三吉 万松寺	正月25日
12	横井右近時保	揚屋入の上、斬首	51	(謹慎中) 三之丸本町門内東へ入ル	4000石 北側	佐藤由吉 養雲寺	正月25日
13	松原新七直富	揚屋入の上、斬首	41	御普請奉行格 撞木町坂下筋より東へ	200俵(内146俵足高) 六軒目南側	宮崎靡 宝林寺	正月25日
14	林紋三郎信政	揚屋入の上、斬首	40	御先手物頭格表御番 北鷹匠町南より取付	300石(内50石足高) 東側	永田良一郎 養林寺	正月25日

【連座】

	処罰者名	処置	役職	処罰日
15	竹居新吉郎	家名断絶	中奥御小姓格	正月23日
16	武野新五郎	家名断絶	大御番組	正月23日
17	成瀬光太郎	家名断絶	御馬廻組	正月23日
18	鈴木丹後守重到	永蟄居	(隠居・謹慎中)	正月24日
19	鈴木嘉十郎重熙	隠居・永蟄居・1700石没収	御年寄列	正月24日
20	成瀬豊前守正植	永蟄居	(隠居・謹慎中)	正月24日
21	成瀬比佐之丞	1700石没収・寄合入	(成瀬豊前守正植息)	正月24日
22	滝川伊勢守忠雄	蟄居	(隠居)	正月25日
23	大道寺主水直良	隠居・永蟄居・1750石没収	三千石以上寄合	正月25日
24	千村十郎左衛門仲冬	蟄居	(隠居)	正月25日
25	若井鋏吉	隠居(昨年10月、200俵内150足高の足高分召上げ)	元留書頭(寄合入・差控中)	正月25日
26	松井市兵衛	隠居・蟄居	元御用人御側掛(寄合入・差控中)	正月25日
27	進 八郎	隠居・蟄居	御使番	正月25日
28	天野儀兵衛	隠居・蟄居	寄合	正月25日
29	横井孫太郎	隠居・謹慎・1050石没収の上、450石下す	千石以上寄合	正月25日
30	沢井溢也	隠居・謹慎・350石没収の上、150石下す	寄合	正月25日
31	名倉鉞之介	隠居・蟄居	中奥御小姓格	正月25日
32	加藤五郎左衛門	隠居・蟄居	御書院番頭格	正月25日
33	本間太左衛門	隠居・蟄居	寿操院様御用役	正月25日
34	本杉録兵衛	隠居・蟄居	錦織奉行格	正月25日

水谷盛光著『名古屋城叢書4 実説名古屋城青松葉事件―尾張徳川家お家騒動―』
(財団法人名古屋城振興協会編集発行 昭和47年4月30日初版)を基に作成。

今般市達相成ハ

朝命之趣固尊奉仕勤

王之志與起仕ハ上者弊藩者勿論迫倚之清度自今合

勉勵勤

王可仕り奉

一賊徒征討非非常之奇者

一津館振々之指揮隨速ニ出共可仕り奉

一假令徳川庶人之指揮有之共

一津館振固之上なりてハ私共指揮ニ應中間為り奉

一隣境徳川庶人ニ領地ハ取締置

一津館振々之差圖相侍り奉

一没向之者を人

一津城下ニ相詰可申ハ奉

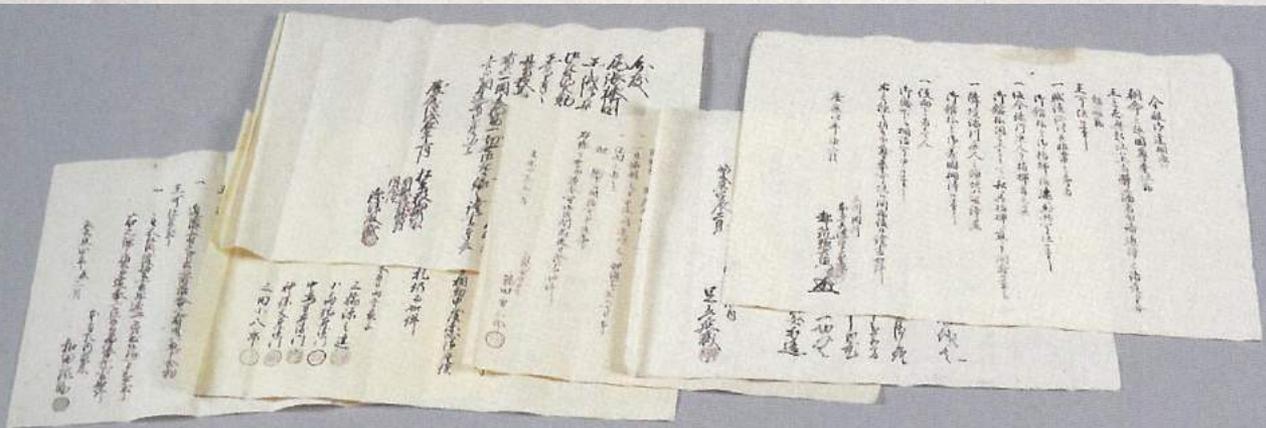
右之條ニ拍之而尊奉可仕ハ間為後日澄高如件

慶應三年辰二月

三州同許

本多美濃守家老

都筑惣右衛門



慶勝、青松葉事件後、直ちに**勤王誘引**活動を開始。

伊勢・三河・遠江・駿河・甲斐・信濃・美濃・上野8ヶ国の大名領・旗本領・寺社領へ家臣を派遣して、「朝命遵法」を「説諭」し、証書を受け取る。

発行した「勤王誘引書」 その数750通

2月中旬までに東海道・中山道沿線の諸藩・旗本・寺社より証書を得る。

新政府軍の江戸進軍が可能となる。

四月十一日 江戸城開城。徳川慶喜、水戸へ退去。



慶応四年（一八六八）三月十三、十四日
江戸高輪において西郷隆盛・勝海舟会談。
江戸無血開城が決定。

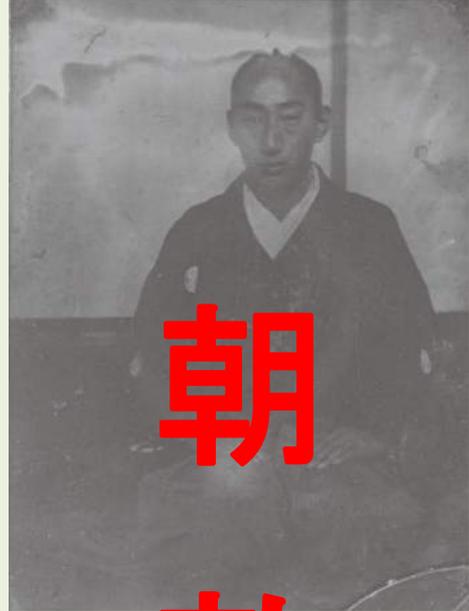
高須4兄弟の別離

2男・慶勝（尾張徳川家十四代） 5男・茂栄（一橋徳川家十代）



新政府側

生死をかけた対立

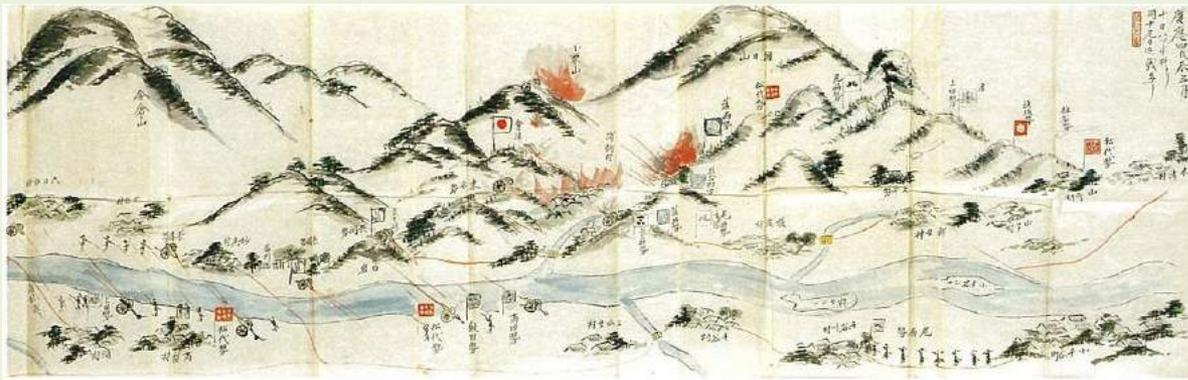


7男・容保（会津松平家九代）



8男・定敬（桑名松平家十三代）

戊辰戦争勃発



慶応四年戊辰五月十日八半時ヨリ同十九日迄戦争図
(徳川林政史研究所蔵)

慶応4年(1868)7月24日
尾張藩兵、会津へ転戦。兄と弟の武力衝突。慶勝正室・
矩姫の実家・丹羽家の二本松城攻撃にも参加。7月29
日、二本松城陥落。

慶応4年(1868)正月17日
会津藩征討の勅命。

慶応4年(1868)閏4月17日
会津藩の恭順嘆願を拒否。

慶応4年(1868)閏4月20日
会津藩、白河城を占拠。
会津戦争勃発

慶応4年(1868)5月1日
新政府軍、白河城奪還。

慶応4年(1868)5月3日
奥羽越列藩同盟成立。

慶応4年(1868)5月4日
北越戦争勃発。尾張藩兵、長岡
へ出兵する。

慶応4年(1868)7月29日
新潟港・長岡城陥落。

慶応4年(1868)8月21日

新政府軍、会津領侵攻。8月22日、猪苗代城陥落。

慶応4年(1868)8月26日

新政府軍、会津若松城への砲撃開始。9月14日、総攻撃。

明治元年(1868)9月22日

会津藩降伏。松平容保父子拘束。

後、東京へ移送。死罪宣告。

明治元年(1868)12月7日

松平容保・喜徳父子、死一等を減じ永禁錮。





箱館戦争図 (市立箱館博物館五稜郭分館蔵)



- 慶応4年(1868)正月6日 松平定敬、徳川慶喜・松平容保と共に大坂より江戸へ脱出。江戸開城の後、松平容保と会津へ移動して籠城する。
- 慶応4年(1868)正月10日 定敬を解任し、桑名藩、新政府軍に降伏。正月28日、無血開城。
- 明治元年(1868)10月24日 定敬、会津落城前に脱出し、蝦夷地へ上陸。
- 明治2年(1869)3月25日 宮古湾開戦。函館戦争勃発。
- 明治2年(1869)4月13日 定敬、五稜郭を脱出。4月26日、横浜到着。
- 明治2年(1869)5月18日 五稜郭陥落。函館戦争終結。同日、定敬、投降。尾張藩邸で謹慎。
- 明治2年(1869)8月15日 松平定敬、死一等を減じ永禁錮。
- 明治5年(1872)正月6日 松平容保父子・松平定敬赦免。

北海道開拓 (士族授産)

明治10年(1877)7月
慶勝、旧藩士3人(吉田知行・
片桐助作・角田弘業)を北海
道へ派遣。



北海道胆振国山越郡山越内
村**遊楽部**を適地とする。

明治11年(1878)6月
北海道開拓使より同地150万
坪の無償払い下げの認可を
受ける。

明治11年(1878)7月
旧藩士の入植開始。
第1回 家族15戸・単身14名

明治29年(1896)時点の徳川家開墾地

「八雲」と命名



竹内弘編『大新百年史』(八雲町大新農業協同組合発行 1988年)より転載

維新後10年目の邂逅

明治11年(1878)9月3日

父・松平義建の17回忌法要で再会した高須4兄弟、銀座二丁目十番地の二見朝隈写真館において写真撮影。

写真撮影後、本所横網町の尾張本邸(現・両国国技館の地)へ移動して4人で会食。

写真代金は4人で折半。と記録に残る。

明治16年(1883)8月1日

本所横網町において波乱の人生を閉じる。享年60歳。新宿・西光庵に葬られる。

